

グループ名	ユニット名等	科 目 名	担当教員名	対象学年次	学期
自己発見	2単位 文化を知る	思想	井上新甫	1年次	秋

授業のキーワード	天心は人心、人心は天心
授業の概要・目的 及び修得させる知識・技能	心を修める学問こそ聖学である。
履修のアドバイス・ 前提科目等	素直な心で授業に臨めば理解できよう。

授 業 展 開

	テーマ	内 容		テーマ	内 容
第1講	日本人と儒教 ①	日本人の思想文化の基礎は江戸時代を通じて養われた儒教によるところが大きい。	第9講	王陽明と儒教⑦	良心に目覚め、心と身を修め、真の自由を得るために、陽明学は大いに力を発揮しよう。
第2講	日本人と儒教 ②	それならば儒教とはいったい何だろうか。儒教とは人間、どう生きるかという学問である。	第10講	王陽明と儒教⑧	以上、陽明学を中心に10講こたつてみていく。学問が血となり肉となるはずである。
第3講	王陽明と儒教 ①	その儒教の中でも、とくに中国・明代の王陽明を始祖とする哲学を陽明学という。わが国では江戸時代に興隆し、在野の学として浸透した。	第11講	神ながらの道①	神ながらの道は古事記の精神である。古事記を知らずして日本人と日本の思想文化は語れない。
第4講	王陽明と儒教 ②	陽明学は良心の学問である。孔子にはじまる儒教の真の精神をもっともよく伝えていっていると申してよい。	第12講	神ながらの道②	神ながらの道は日本人の心の故郷と申してもよい。この道を古事記のなごの上巻、神世の巻をみながら日本人とは何かを考える。
第5講	王陽明と儒教 ③	学問は心に会得し、行動に現すところに真価がある。陽明学の本旨はこの一点に尽きる。	第13講	神ながらの道③	今年、平成19年の三が日に、神社仏閣に詣でた人は9700万人を超え、警察庁が統計をとり始めて以来、最高だという。これは何を意味しているか。
第6講	王陽明と儒教 ④	心とは何か。だれもが心もちながら、その心ほど自分の思うようにならぬものはない。	第14講	まとめ	以上14講の整理、反復
第7講	王陽明と儒教 ⑤	心を修めるとか、心を磨くとかいわれるが、何をどうすればよいのか。心という満月にかかる雲を払いのける、ただそれだけの日々の努力である。	第15講	試験	
第8講	王陽明と儒教 ⑥	このことを良知を致すという。良知とは良心の純粋なまたらきのことであり、人間生まれながらに備わっている赤心のことである。	評価方法		期末の試験と中間の感想文。授業に臨む姿勢、出席状況は考慮の対象とする。
備考 (関連する資格・試験等)		なし			
使用する教科書（必ず購入してください）			参 考 文 献		
井上新甫著『王陽明と儒教』致知出版社（必ず購入のこと）。ほかにほぼ毎回、資料を配る。			必要があれば挙げる。		